

# Linkage

2025  
Autumn  
Vol. 23



ご利用者様の夏休みの活動の様子

# トピックス

日頃より当法人の運営にご支援・ご協力いただき、関係者の皆様には感謝申し上げます。

リンケージでは、ホームページ内にありますブログで毎週「みんなしりたいリンケージ今週のひみつ」と題しまして、各事業部の近況やお知らせを更新しています。会報誌ではお伝えしきれない日頃の活動の様子やスタッフの思いなどをつづっております。また、スタッフによるインスタグラムでもご利用見様の作品や活動の様子が見られます。会報誌とあわせてぜひご覧ください。



## 2 活動報告

早いもので今年度ももう半分が過ぎました。ご利用の皆様と共に過ごした夏の活動を各事業部より報告致します。

### 啓蒙活動

榛名湖ぞいのマツムシソウとベンチに寝転がって見た青空です。



デイリーハッスル。

日常生活でストレスを抱えたり、うまくいかないことが続くと、自分や相手が嫌いになったり、イライラしたり、ひとりぼっちに感じたり、自分の中に我慢する理由が見つからなくなり、やらなきゃよかったという行動が起きやすいものです。最近はお話の会で「親となった自分のこころのケア」のお話をさせていただくことが多くなりました。親になっても人間は人間です。

普段は家族のために使っている時間をこの時だけは、ご自身のためだけに使っていただけます。

講演会の内容は、自己肯定感を高めるために自分を知ろう・自分がどのようなことにストレスを感じるかに気づこう・自分のストレス対処のパターンを確認しよう・セルフケアの方法を知ろうの4部構成です。自分の好き嫌いや得意・不得意、意欲が上がる場面・下がる場面、理想や価値観など、自分について必要なことに気づいていただいたり、デイリーハッスルにどのくらいストレスを感じるか調べてもらったり、ストレスコーピング自己診断チェックリストを使って、自分が使っているストレスへの対処方法を整理していただけます。

そして最後に、呼吸法と54321法を試していただけます。

最後は、ゆったりとしながらも頭がすっきりしておしまいです。

### 児童発達支援

暑かった夏も終え「いよいよ秋！」と思っていたものの、まだまだ残暑が続いている今日この頃。皆様も休息や水分補給などまだまだ続く暑さへの対策を行い、お体ご自愛ください。

さて、以前「からだあそび」という活動を取りあげさせていただきました。

今回も「からだあそび」からお話をさせていただきます。

「からだあそび」という名になっておりますが、「ただあそぶ」というわけではありません。

からだを使ったあそびを通して必要な約束やルールといった、「社会性」もふくまれています。

今回ご紹介する「からだあそび」は

◎リトミック

◎玉入れ

です。

## ◎リトミック

からだの動かし方はもちろん、音楽に合わせてリズムにあわせ体を動かす、といった目的があります。

音楽に合わせてからだを動かすことで、自分のからだを意識し、「こうに動かすんだ!」といった

他者の真似ができるところがよいところです。

「こうに動かすんだ!」といったからだの使い方をしていくなかで、自分で自分のからだをコントロールする力をのばしていきます。



## ◎玉入れ

「目と手のチームワーク」や「協調運動」といったボールを投げるときの力の入れ方(強弱)

といった運動としてとれています。まだ片手で投げるのが苦手なお子さんも、カゴを低くすることで、玉を入れる楽しさを覚え「玉を投げようとする」姿が見られるようになります。

そこから投げる強さを自分のからだのコントロールの一環として

養いつつ「自分からやってみようとする」力ののばしています。

また、玉入れをこどもチーム対スタッフとして行う中で、お友だちと力を合わせて行う「社会性」の学びの場として、活動を行っています。



10月から午前のそらまめクラスは後期のプログラムが始まります。

個別療育「できるかな」が一斉療育「そらまめ学級」となります。

個別療育で培ってきたものを後期そらまめでは、より他者と関わること

での「人間関係・社会性」「言語・コミュニケーション」といった育ちを大切にしながら、お子さんの成長に必要な個々の支援もプログラムの内容に取り入れながら行っていきます。

今後とも日頃の療育の場やブログ、会報誌といった場面を通じ、活動内容をご報告させていただきます。重ねてではございますが、まだまだ暑い日が続くかと思われまます。皆様お体ご自愛ください。

## 放課後等デイサービス

### ■夏休みの活動報告

今年の夏も全国的に記録的な猛暑となり、最高気温の更新が続きました。そんな中でも子どもたちは暑さに負けず、元気いっぱいにご過ごし、遊びや体験を通して大きな成長を見せてくれました。夏休みは、普段よりもゆったりとした時間が流れる特別な期間です。その中で、一人ひとりの興味や得意を大切にしながら、安心して楽しめる環境を整え、仲間と共に過ごす体験を積み重ねることを心がけました。

お盆の時期には、毎年恒例の「夏休みフリーイベント」を開催しました。ラウンドワンではボウリングやスポッチャを楽しみ、体を動かす気持ちよさやルールを守る大切さを学びました。おもちゃ王国では、お盆期間で移動や待ち時間が長くなる場面もありましたが、それぞれが好きな遊具を楽しむだけでなく「一緒に行こう」と友達を誘う姿も見られ、遊びの中で自然なコミュニケーションが広がりました。ゲーム大会では、上級生が中心となってさまざまな提案をしてくれ、学年を超えて一緒に盛り上がる事ができました。その中で、感情を整える力や工夫する力が少しずつ育っています。さらに、自然の中で行ったBBQでは、食材を分け合ったり役割を分担したりしながら、美味しい時間をみんなで楽しむことができました。

夏休みの活動は、楽しい思い出になるだけでなく、順番を待つこと、仲間と協力すること、興味を深めること、気持ちを切り替えることなど、療育的な学びの場にもなります。こうした経験を少しずつ積み重ねることで、子どもたちは自信をつけ、社会の中で生きる力を育てています。遊びは子どもたちにとって最高の学びの場です。この夏も、挑戦する姿や笑顔をたくさん見ることができました。これからも、楽しく安心できる環境の中で、一人ひとりの成長を応援してまいります。



## ■ソーシャルスキルクラブ

### 🌻 みんながんばった！夏休みの宿題祭り

8月9日（土）、ソーシャルスキルクラブで「夏休みの宿題祭り」が行われました。いつもは遊びや交流が中心のクラブですが、今回は初めて“勉強”をテーマにしたイベントでした。スタッフは少し心配していましたが、子どもたちはとても集中して、それぞれの宿題に取り組んでくれました。ある子は「学校の給食」をテーマに絵を描きました。「牛乳パックはこんな形だった！」とインターネットで調べながら、細かいところまで丁寧に描いていました。サラダやハンバーグなど、画像が見つからないものは、自分の記憶を頼りに工夫して描いていました。絵の色塗りでは、「水を混ぜると塗りやすいよ」「筆をトントンするときれいに見える！」「ペンキ塗りはよくないって言われた」など、学校の先生に教わったことを思い出しながら、いろいろ試していました。スタッフと話し合いながら、約2時間半かけて絵を完成させました。最後まで集中して取り組む姿に、子どもたちの成長を感じました。遊ぶ時間も大切ですが、こうして勉強に向き合う時間も、子どもたちにとって良い経験になったと思います。これからも、楽しく学べる場所を作っていきたいです。

## 就労移行支援・就労定着支援

### ■高崎警察署の方に特別講演をしていただきました

8月1日に、高崎警察署から講師をお招きして「闇バイトと特殊詐欺」についての特別講座をおこないました。前半は、館林警察署制作のロマンス詐欺に関する動画を視聴し、後半は、闇バイトや警察官を名乗る詐欺などについてお話を聞きました。警察官の方から聞くリアルなお話には、参加していた利用者様もすっかり引き込まれた様子で、皆さん熱心に聞いていらっしゃいました。

SNS世代の若者たちは、さまざまな情報に遭遇します。真偽のわかりにくい情報、会ったこともない相手とのやりとりなど、SNS上は便利さ・楽しさなどと引きかえに様々なリスクにも溢れています。引き続きリンケージでは、情報リテラシーを高めるための講座の実施等にも取り組んでいきたいと思っています。

2025.8.1

## 高崎警察署から講師をお招きして 特別講座を実施しました！



就労移行支援事業所リンケージ

書類の確認方法についてのお願いです。

モニタリング報告書または受給者証の更新書類の確認方法について、これまで「事業所にご来所いただいたの確認」や「郵送（返信用封筒付き）でのやりとりにて確認」など、皆さまにご協力をいただき進めてまいりました。しかし、相談支援専門員の自宅訪問について、あらためて高崎市障害福祉課より以下の通知が発出されることになりました。

『相談支援専門員の自宅訪問について：障害福祉サービスの利用にあたっては、相談支援専門員の作成する障害児支援利用計画が必要です。この計画作成にあたっては、生活全般を支援する観点から相談支援専門員による自宅訪問が必要になります。相談支援専門員が自宅訪問できない場合、計画が作成できず、障害福祉サービスの利用ができませんので、自宅訪問についてご理解くださいますようお願いいたします』

ご自宅を訪問させていただくことにつきましては、皆さまにご負担をお掛けすることも承知しております。同うことの他にさらにご負担をかけてしまうような、「せっかく来てもらうのだから、何か用意しなくちゃ」というお気遣いは不要です。

不明な点やご意見などございましたら、いつでもご相談ください。

また、自宅訪問をさせていただくにあたり、ご都合のよい日程、またはよくない日程などございましたら、以下の枠にご記入いただきますようお願いいたします。（例：○曜日の午前中だと対応しやすい…など）

こちらの都合での変更となりますが、ご理解のほど、どうぞよろしくようお願いいたします。

## 3 情報提供

この欄では毎回皆様が皆様らしく生きるためのヒントとなるような情報などをお伝えできたらと思っております。

今回は、テレビドラマの紹介をさせていただきます。

今年の7月からフジテレビ系木曜劇場で放送されていたドラマ「愛の、がっこう。」です。



堅実すぎる高校教師・小川愛実と、文字の読み書きに苦しむホスト・カヲルが、秘密の“個人授業”を通じて出会い、偏見や困難を乗り越えながらお互いを支え合っていく物語で、単なる恋愛ドラマではなく、教育・福祉・多様性・障害理解といった現代社会の重要なテーマに正面から向き合った作品です。

法人内の学習会で、文字の読み書き障害である「発達性ディスレクシア」について学ぶ機会がありました。それが題材になった作品ということで、皆様にもドラマを通してディスレクシアを知っていただくいい機会だと思い、情報提供させていただきます。

### ■そもそも発達性ディスレクシアって・・・？

知的発達に問題がないにもかかわらず、読み書き能力に著しい困難を抱える学習障害の一つです。特に「読むこと（読字）」に関する困難が中心であり、書くこと（書字）にも影響が及ぶことがあります。

ドラマの中では、ホストのカヲルは、文字を読むこと・書くことに強い困難を抱えており、これは彼の過去のトラウマ、自己否定感、社会との関わり方に深く影響しています。

読めない・書けないことで「バカにされる」「仕事で苦勞する」「他人を信じられない」という生きづらさが、ドラマの彼の防衛的・攻撃的な言動に繋がっています。

ディスレクシアは見た目ではわかりにくく、周囲から「怠けている」「努力不足」と誤解されがち。その偏見がドラマの中でもたびたび描写されます。

これらを通して、社会が“見えない困難”にどう向き合うかが問われているのです。つまり、ディスレクシアは彼の人間性の“弱さ”ではなく、社会から見えにくい苦しさを持つ人間としてのリアルな背景になっている、と言えます。

そして教師・愛実が彼に読み書きを教えるプロセスが、二人の関係を深める「がっこう＝学校」となっています。

誰かに「わからない」と言えることの難しさ・教える人が、同時に「自分も学び直している」こと・知識ではなく、人としての尊厳を回復するための学びという視点が丁寧に描かれています。次第に回を重ねることによって、“読み書き”を学ぶことが、彼にとって「他人とつながるための第一歩」として位置づけられていきます。

物語の根底にあるテーマは、ずばり「愛とは何か」「学ぶことは誰のためにあるか」です。タイトルの「愛の、がっこう。」の句読点の意味（途中の“、”と最後の“。”）が示すように、「愛」は一度止まって（、）学ぶことで完結する（。）これはまさに、ディスレクシアという“壁”を通して、二人が「わかり合う言葉」を探す旅のようなものとも言えます。

つまり『愛の、がっこう。』において発達性ディスレクシアは、

「社会の中で見落とされがちな痛み」を描くためのリアルなモチーフであり、同時に「愛によって乗り越えられるものではなく、理解と尊重によって寄り添えるもの」として、真摯に描かれています。

ここで、このドラマが社会にどんな影響を与えるのか考えてみましょう。

まず1つめは「見えない障害」への理解の促進です。このドラマの題材である、発達性ディスレクシアは、外見からはわかりにくく誤解されやすい障害です。このドラマを通じて、「読む・書くが苦手＝努力不足」ではないという認識が広まっていくと思います。特に、若い視聴者や親世代の教育的リテラシーに影響を与えていく可能性があります。影響例として「うちの子も漢字が苦手で…まさかと思って調べたら発達性ディスレクシアの傾向があった」「ドラマで初めて“読み書き障害（発達性ディスレクシア）”を知った」というSNSの投稿も見られているようです。

2つめに、教育とは何か？を見直すきっかけになります。

「教える／教えられる」という関係の中に、上下ではなく“対等な人間関係”が描かれています。学び直し（リカレント教育）や、生涯学習の大切さにも触れており「学ぶのに遅すぎることはない」という前向きなメッセージが社会に響いています。

3つめは、“不完全な恋”の価値を肯定すること。禁断ではなく“不完全で誠実”な関係の認知です。教師とホストという“社会的に批判されやすい関係”を真正面から描いたことに賛否はありましたが、それがかえって議論を呼びました。この関係は「倫理違反」ではなく、支え合い・理解し合うことの難しさと尊さを描いています。

特に若年層・Z世代を中心に、「自分の幸せをどう定義するか？」という内省を促したという声もありました。

今では、サブスクリプションでいつでもどこでもテレビドラマが見れる時代です。

「愛の、がっこう。」は現在放送終了していますが、NetflixやFODで配信しているので、興味がありましたらぜひともご覧いただきたいです。

発行日 2025年10月1日発行

発行元 NPO法人 リンケージ

TEL : 027 - 345 - 7390

群馬県高崎市江木町 979 - 3

FAX : 027 - 345 - 7391

<http://www.npo-linkage.net/>